

分野		科目名		配当年次		開講期	
専門分野Ⅰ		基礎看護学援助技術Ⅲ 食・排泄		1 年次		前期	
単位数		時間		担当教員		実務経験の有無	
1 単位 (30 時間)		食	14 時間	石丸 綾佳	専任教員	有	
		排泄	16 時間	山石美由希	専任教員	有	
授業 の 概要	人間が生命を維持するために欠かすことができない食事と排泄の意義を理解して、対象が健康な生活を送るために必要な援助の方法を習得することを目的とする。						
到達 目標	(食) 1. 人間にとっての食事の意味を理解する。 2. 健康な生活を送る上で食事の必要性について理解する。 3. 食への援助方法を理解する。 4. 消化吸収障害、栄養障害のある患者の基本的な援助を理解する。 (排泄) 1. 人間にとっての排泄の意義、排泄のメカニズムや影響を与える因子を理解する。 2. 排泄の障害が対象に与える影響や排泄の援助方法について理解する。						
授業 計画 食	No.	授業内容				授業方法	備考
	1	人間にとって食とは何か、食べることの意義				講義	
	2 3	消化器の構造と働き、消化・吸収のメカニズム				GW	
	4	健康を導く食事、看護師の役割				講義	
	5 6	基本的な食事介助の方法 (POTT による方法) 食事環境の整え方、自分らしい食事の援助とは 食事援助における倫理的配慮				講義 演習	
	7	健康状態に応じた栄養摂取 経管栄養方法・胃瘻				講義・演習	
	排泄	1	人間にとっての排泄の意義				講義
2		排泄のメカニズム、排泄障害の種類と特徴				講義	
3		排泄に影響を与える因子、排泄の援助を受ける患者の心理				講義・演習	
4		自然排尿・排便を促す方法				GW	
5 6 7 8		障害に応じた排泄ケアの実際 差し込み便器 (和式・洋式)・尿器 (男性・女性)・導尿 膀胱留置カテーテル・浣腸・摘便など				GW・演習	
評価	複合科目 (食事 50 点・排泄 50 点の合計 100 点)						
参考 文献	1) 薄井坦子他：看護の生理学 (1) (2) 人間を見る看護の視点 現代社 1993 2) 薄井坦子：看護のための人間論 ナースが見る人体 講談社 1987 3) 金井一薫：ナイチンゲール看護論・入門 “看護であるものとなないもの” を見分ける眼 現代社 1993 4) 堺 章：新訂 目で見えるからだのメカニズム 医学書院 2000 5) 藤野彰子他：看護技術ベーシックス新訂版 医学芸術社 2015 6) 写真でわかる基礎看護技術 インターメディカ 2006						
備考							